

# 糖尿病患者さんの「輪」の拡大を願って

## ～糖尿病協会の紹介～

先日実施した、あるブロック糖尿病教室で、東京都糖尿病協会(以下「東糖協」)に関するアンケート調査を実施した結果、東糖協に対する認識度が低いこと、活動内容をより一層PRする必要があることが分かりました。ここでは、東糖協の活動状況を中心に紹介します。

田辺達也(豊島かとれあ会)  
東京都糖尿病協会副会長

東糖協は昭和62年4月1日付けで社団法人となり、糖尿病に関する活動を毎年続けてきています。現在は、日本糖尿病協会(以下「日糖協」と表記)の東京都支部に位置しています。

**1 組織構成**

東糖協は、主に都内医療機関の糖尿病専門医、コメディカルスタッフ及び糖尿病友の会として組織されている患者さんで構成され運営されています。

現在、友の会の数は125クラブ(会員数6500名)が加入しています。各友の会の会長は、東糖協理事に就任し、全員が東糖協の運営に関与しています。

## 2 加入方法

東糖協への加入方法は、通院している医療機関毎に設置されている友の会に加入手続きをします。加入すると会費の負担が必要です。

## 3 加入後には

会員に毎月、日糖協が発行する月刊糖尿病ライフ『さかえ』が届き、継続して読むことができます。同誌は、毎号編集委員の先生方が創意をこらして、最新情報はもとより糖尿病と共に生活する上での貴重な記事が満載され、糖尿病の自己管理に関する知識が深まります。

そのほか、東糖協主催の各種行事については、事前に案内(チラシ)が配布され、行事内容の詳細が理解でき、参加することも容易になります。

## 4 行事の開催

**ア 講演会**

東糖協では毎年3回、都内の大きな会場で、次のような講演会を開催しています。

- ①糖尿病予防講演会▼10月(西東京地区)
- ②糖尿病週間講演会▼11月(九段会館)
- ③糖尿病市民セミナー東京▼2月(よみうりホール)

これらの講演会は、実行委員長として担当される糖尿病専門医の先生が、企画し準備を進めます。

今何を知らせるべきか、どんな内容が来場者にフィットするかなど研究を積み重ねて、当日が終了するまでご苦労をおかけ

ています。ぜひ一度ご来場下さい。

## イ ブロック糖尿病教室

都内を6ブロックに分けて、各ブロック毎に最寄りの会場で、年間、数回実施しています。(6～7頁・10～12頁参照)

## ウ 歩く会

主に都内の公園などに集い、年5回実施しています。毎回、担当の先生による「青空教室」があり、有意義なお話を聞くことができます。(8頁下段～9頁参照)

## エ その他の事業

### ①旅行会

会員同士の親睦の場として、6月と11月に、一泊二日のバス旅行を実施しています。(8頁上段参照)

### ②各種表彰

●糖尿病師範(優良な自己管理患者を対象)

### ●功績表彰(個人・団体)

を実施しています。

## 5 会員増強活動

東糖協では、講演会などの行事開催時に必ず入会のご案内をしています。このほか、5月と11月を会員増強月間として、糖尿病協会未加入の患者さんに「入会するよう」療養指導医の先生から、勧めて下さることをお願いしています。

そのほか、都内で糖尿病診療をしている約500の医療機関に対して、友の会設立のお願いと、登録医・療養指導医の説明会開催の通知をいたしました。その結果、い

くつかの「友の会」が新設されました。会員の増強は、既設友の会への新規会員の加入推進と、未組織の医療機関での友の会新設という二つの側面があります。なお、新設には、東糖協役員がご説明に伺う用意があります。ぜひ、お声をかけてください。

## 6 ホームページ

東糖協のホームページには、イベント情報のほか、友の会の一覧など、必要な情報の検索が可能です。

## 7 財政規模

平成20年度予算

2881万円

(会費22・6%交付金4・2%)

事業関連支出

1135万円

管理費関連支出

767万円

次期繰越

979万円

計

2881万円

## 8 日本糖尿病協会の紹介

日糖協は、1961年に創立、1987年に社団法人となり、さらに2006年には「特定公益増進法人」格を取得しました。48都道府県すべてに支部が設置されている全国組織です。さらに、7つの地方連絡協議会が置かれています。

日糖協への加入を、東京都を例に説明します。患者さんが通院している医療機関の糖尿病友の会に加入すると、東糖協に加入し、関東甲信越連絡協議会の会員となり、日糖協の会員にもなります。

日糖協の活動目的は、糖尿病の予防と療

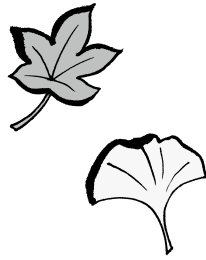
養について正しい知識の普及と啓発・患者家族(予備軍)の方々への療養支援・国民の糖尿病予防と健康増進などです。

東京都からも理事や委員が選出され、運営に参画しています。

日糖協の総会が本年5月23日に東京国際フォーラムで開催され、席上、本橋義治氏(日糖協顧問・東糖協顧問・元東糖協会長)が、サノフィ・アベンティス賞(以前の日糖協賞)を授賞されました。心より、お祝い申し上げます。

最後に、皆さん方とともに活動できる日が早く来ることを期待します。

なお、患者さんの体験談を、載せましたのでご覧下さい。



### ●患者体験談● 糖尿病協会とのめぐり会い

Mさん

私をはじめ糖尿病に罹ったことを知ったのは、今から37年前でした。その頃は糖尿病に関する情報が少ない時代で、私自身は糖尿病に対する正しい知識がありませんでした。初めの数ヶ月は通院治療をしていましたが、自覚症状がなかったため、やが

て中断してしまいました。

このように病気を忘れて10年経過した頃、1か月に1kgずつ体重が減ってきました。早速、医大付属病院に行き、即入院。以来インスリン療法となりました。

しかし、私は依然として模範患者ではありませんでした。やがて定年退職を無事迎えることができ、それ以後も平穏な生活が続きました。

ところが、今から12年前に糖尿病特有の無痛性心筋梗塞が発見され、6時間に及ぶ冠動脈バイパス術を受けました。九死に一生を得るつらい体験でしたが、幸いにして生還できました。

私が糖尿病になったとき、「一病息災と言って、一つくらい病気があった方が体を大切にして長生きできる」と、慰められたものです。しかし、糖尿病と付き合うことは、そう簡単ではありません。糖尿病治療に関する科学的な知識と体の特性を知り、自分が主体的に治療する必要があります。

その意味で糖尿病友の会とのめぐり合いは幸運でした。私の主治医が主催する勉強会が身近にあったのです。私はこの会に早速入会させて頂き、基本的な知識を身に付け、実践できるようになりました。そして、現在のヘモグロビンA<sub>1c</sub>は6%前後で安定しています。

このようにして、明るく楽しく暖かい人間関係の中で、糖尿病と共に生きる力をつけることが出来ました。

# 日本糖尿病協会年次集会

当日は好天に恵まれ、定刻の午前9時前には、熱心な来場者でほぼ満席になりました。



平成20年5月23日  
よみうりホール(有楽町)

「テーマ」

## 糖尿病の「今日」とあした「明日」を考える

日本の糖尿病の実践と将来への展望

### 「プログラム」

#### ・会長挨拶

日本糖尿病協会東京都支部長  
菅原正弘先生

#### ・基調講演

### 「糖尿病治療の希望と挑戦」

東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科  
門脇 孝先生

#### ・シンポジウム

「どこまで変わるか、糖尿病との付き合い方」  
最新情報  
朝日新聞権 敬淑氏  
毎日新聞 永山悦子氏  
日本経済新聞 中村雅美氏

#### ・特別講演

### 「長寿の健康食」

糖尿病患者及び家族の方へ  
聖路加国際病院理事長 日野原重明先生

#### ・日本糖尿病協会表彰式 ・閉会挨拶

日本糖尿病協会年次集会実行委員長  
貴田岡正史先生

※次ページより、基調講演と特別講演を聴講した感想をご紹介します。